

おいさん山形

漁民と手をつなく広報誌

No. **353**

令和2年 / 7 月号

山形県漁業協同組合
広報誌

漁船リース事業

新たな船出

第二十一清栄丸

小型いか釣り漁業を営む山形県漁協由良総括支所所属の第21清栄丸が、広域浜プランに基づき推進している「浜の担い手漁船リース事業」を活用し、リニューアルしました。

7月11日には祈祷式が執り行われ、水産関係者を中心にみんなでお祝いました。

3月号で紹介いたしました、船頭である大場誠市さんのご子息、龍汰さんが今回の出漁から乗船するというので、喜びと期待が一層高まる船出です。

今後の大場さん親子の大漁満足と航海安全を心からお祈りいたします。



第55回 通常総代会開催



第55回通常総代会が6月20日(土)午前10時より本所講堂において開催されました。冒頭、本間組合長が挨拶を行い、次に実出席された念珠閣地区総代の佐藤英壮氏が議長に選出され、第1号議案の令和元年度事業報告及び損失処理案の承認に関する件、第2号議案の令和2年度事業計画の設定に関する件、第3号議案の令和2年度における借入金 の最高限度額に関する件から第8号議案の役員選任に関する件まで8議案が審議され、いずれも可決承認されました。

令和元年度の事業概況

令和元年度の本県漁業については、船凍いか釣漁業が空前の不漁となるとともに、沿岸における定置網や採介藻漁業も不漁で終了しました。一方で底曳網漁業が水揚数量・金額ともに増加、さらには年度後半になって本県沖にスルメイカ漁場が形成されたことにより、県外生イカ船が酒田港に集結したことから、まとまった水揚げがあり、総水揚金額は前年対比87百万円増、計画対比でも71百万円増の27億91百万円となりました。総水揚金額の増加と生鮮魚介類の水揚量の増加は、経済各事業の取扱増となり、1月以降の経営収支状況は大幅に改善されたところであります。

断されたため、臨時損失として20百万円を計上しております。最終的に令和元年度の当組合の収支実績については、事業利益が13百万円、経常利益についても35百万円を確保することができ、当期剰余金として10百万円を計上することができました。これもひとえに組合員の皆様のご協力によるものと深く感謝申し上げます。今後とも、当組合が将来にわたり持続できる協同組合組織として事業を継続していくために、確実に組合全体の収支を黒字化できるような収支構造の改善を図り、計画的な内部留保による財務基盤の強化に努めてまいります。

今後とも、役員一致団結して経営改善に努めてまいりますので、組合員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。主な事業活動と成果については以下のとおりです。

① 信用事業

貯金業務については、計画目標を52億円とし、本年度も「みな貯金推進運動」等を展開しながら個人貯金残高の維持・確保を図ってまいりましたが、漁獲不振も相まって、個人貯金の減少に歯止めがかかりませんでした。最終的に年度末残高は47億96百万円、平均残高では48億39百万円となり計画対比92・2%となりました。貸出業務については、計画目標を5億91百万円とし伸長融資に努めました。最終的に年度末残高は5億71百万円となり計画対比96・6%という結果となりました。なお、貯貸率は11・9%となり前年対比0・2%下回りました。その結果、信用事業総利益は25百万円となり、前年度末対比で1百万円増となりましたが、計画対比では6百万円の減少となりました。

② 共済事業

長期共済新規契約高は「チョココー」が13億1百万円、「くらし」が2億28百万円の実績となりました。組合員の高齢化等により新規・満期更新が厳しく、主要商品である「チョココー」の保有伸長率は98・0%と低迷しました。また、「くらし」の伸長率は契約高が減少し、98・1%となっております。

短期共済新規契約高は「カサイ」が55億50百万円、「ノリコー」が9億71百万円となり、それぞれ計画に達するに至らず74・6、79・2%の実績となりました。

依然として総体的には保有率が減少していること等が影響し、共済事業総

③ 購買事業

当組合の主要石油類の供給価格については、年度内に数回の価格改定を実施し適正価格での供給に努めてきました。引き続き原油市況の先行きが不透明な状況にありますが、今後も動静を注視しながら、安定供給と適正価格での供給に努めてまいります。

当組合の主要取扱品目であるA重油の供給数量は、中型漁船への供給を中心に漁業用燃油は堅調に推移しましたが、酒田北港浚渫工事船向けの発注がなく員外供給が大幅に減少したことで前年対比80・3%の実績となりました。軽油については、12月下旬から県外生いか漁船がまとまって入港したこと、前年対比108・4%の実績となりました。白灯油については、暖冬の影響により前年対比89・8%の実績となりました。潤滑油については、前年対比102・5%の実績となりました。

この結果、石油類全体の供給数量は前年対比83・4%の実績となりました。魚箱類については、生鮮魚介類の漁獲量の増加により、前年対比117・0%の実績となりました。

一般資材類については、国の補助事業や制度資金と連動した船用機器の購買扱いがあったものの、取扱高は前年対比72・0%の実績となりました。

その結果、購買事業総利益は1億77百万円となり、前年度に対し104・0%の実績率、計画に対しては93・1%の達成率となりました。

④ 販売事業

本年度の本県漁業は、総漁獲量の約3割を占めるスルメイカの資源減少が続くなか、主要漁種である船凍いか釣漁業の水揚が不漁年であった前年度を更に600トン下回る870トンとなり、全国的な品薄が影響して記録的高値取引となったものの前年対比64百万円減の8億34百万円の取扱いにとどまりました。

一方、小型いか釣漁業については秋季まで低調に推移していましたが、12月以降本県沖合に漁場が形成されたことにより県外船が集結し、高値水準も相まって前年対比85百万円増の3億45百万円の取扱いとなりました。

沿岸漁業は、定置網漁業が前年同様漁獲不振となりましたが、基幹漁業である底曳網漁業がハタハタ・マダラ・ホッケの漁獲が増加し、数量・金額とも前年度を上回りました。

この結果、最終的な総水揚金額は前年対比87百万円の増、計画対比71百万円増の27億91百万円となりました。

買取販売については、主要取引品目である冷凍スルメイカの漁獲量の大幅減により高値安定となるも、12月以降一転して下げ相場となり、その後、新型コロナウイルス感染症拡大や決算期の到来等も重なり、外食産業向けサイズ



を中心在庫が滞留することとなりました。この結果、保有在庫の収益性が著しく低下していると判断し評価損を臨時損失として計上しております。

最終的な冷凍品の販売高は、取扱数量の減少により前年対比2億48百万円減の4億26百万円となりました。

その他魚価向上に関する取組みでは、庄内浜の魚消費拡大プロジェクト事業に参画し、県行政機関及び仲卸業者と連携して、県内陸地域の量販店において春と秋に「庄内浜旬の魚キャンペーン」を展開しました。また、加工事業と連携し、行政機関が県内で主催する各種イベントに積極的に出店して庄内浜の魚のPR活動を行うとともに魚食普及に取り組みました。

その結果、販売事業総利益は前年対比19百万円の増、計画対比でも11百万円増の1億30百万円の実績となりました。

⑤ 製氷冷凍冷蔵事業

工場生産の合理化に努めるとともに、組合員に対する安定供給を優先し事業を展開しました。小型いか釣漁業への供給については、夏季は芳しくなかったものの冬季における県外船の入港により前年対比106%の供給数量となりました。また、定置網漁業等地元沿岸漁業への供給も増加したことで、前年対比106・5%の4万5千本の供給数量となるとともに、供給高でも前年対比110・6%の80百万円の実績となりました。

一方、各施設の計画的な保守管理を実施したことによる修繕費等の経費が増加したことにより、最終的に製氷冷凍事業総利益は30百万円となり、前年度に対し120・7%の実績率、計画に対し110・4%の達成率となりました。

⑥ 加工事業

スルメイカの漁獲不振が慢性的に続く中、冷凍スルメイカ原料価格が異常高騰しています。

このため、スルメイカ加工製品の販売価格を値上げしたことの影響で売り上げが落ち込んだことに加え、他の加工製品についても原料不足や仕入れ価格の上昇により全般的に販売が落ち込み、加工品販売高は前年度対比1百万円減(97%)、計画対比3百万円減(94%)の47百万円の取扱いになりました。

また、加工製業向けの原料販売も高値で推移したため販売が不調となり、冷凍品供給高は前年度対比6百万円減(89%)、計画対比8百万円減(86%)の53百万円となりました。

こうした中、昨年度に庄内浜産水産物安定供給事業で導入した急速冷凍機を活用し、第7回Fishierグランプリ2019で「グランプリ」を受賞した「おさしみ鮭とイクラ漬け丼」の一般消費者向け商品開発や新たな加工品開発に積極的に取り組んでおり、今後の販路拡大と売上向上に努めてまいります。

一方、オープンから丸2年が経過した県漁協直営店「庄内海丸」は対面販売が定着し消費者から好評を得ています。今後も低利用魚等の馴染みの少ない魚種の食べ方を消費者にPRしながら、引き続き庄内浜の魚の消費拡大に向けた新たな販売展開に努めてまいります。

その結果、加工事業総利益は10百万円となり、前年度に対して118・3%の実績率、計画に対して140・1%の実績率となりました。

⑦ 指導事業

県・沿岸市町の協力を得て、各種育苗育成及び稚魚・稚貝の放流を実施し、資源の培養と繁殖保護に努めました(放流尾数 アワビ153,800個、ヒラメ140,400尾、サケ195,600尾)。さらには、放流地付近の禁漁区および保護区域の設定により、放流稚魚の保護を図りました。

「浜の活力再生プラン」および「浜の活力再生広域プラン」を継続的に推進しました。そのうえで、水産業競争力強化型機器等導入事業を積極的に活用し、漁業経営の安定と水産物の安定供給を目指す取り組みを行いました。

昨年度に引き続き、緊迫する北朝鮮のミサイル発射問題について、漁業無線局の電波が届かない海域で操業する漁船との連絡手段の確保のため、県の支援を得て船舶衛星電話の設置に取組みました。

浜の担い手漁船リース事業及び水産業成長産業化沿岸地域創出事業のリース事業体となることを目的として「一般社団法人山形県漁船リース協会」を設立し、リース事業において漁協事業を有効に活用することが可能となるよう事業構造の改革を実施しました。

外国人漁業研修制度について、当組合が受入機関となり、研修生の受け入れに継続して取り組みました。中小型いか釣漁船や定置網漁船で実習中のインドネシア研修生を新たに5名受け入れました。

新規漁業者関係事業では、国庫事業による長期研修に独立型2名、雇用型2名が受け入れられ、そのうち2名は研修を継続中です。



組合長就任の挨拶

代表理事組合長 **本間 昭志**

このたび、役員の任期満了に伴い、改選の結果、不肖、私が再選され、組合長として二期目の重責を担うこととなりました。

私は、自らの浅学非才を顧みまして、責任の重さを一層痛感しておりますが、再選されました以上、これまで監事も含め非常勤役員三期九年、組合長としての一期三年、併せて十二年の実績と経験を生かし、本県水産業発展のため、意を新たにして組合員の皆様・役職員の皆様の期待に応えるよう誠心誠意職務に専念する所存であります。

平成二十九年の六月、組合長就任させていただいて以来、強い思いを持ち申し上げていることは、漁協自らが変革を恐れない勇気を持ち、真に浜から信頼される組織であることが、今こそ求められているということであり、今こそ求められているということでもあります。

当組合の将来を考えると、まず、自らが決めた道、すなわち中期経営計画で掲げた道を、毅然として進んでいくことが重要であり、何としても今年度で繰越欠損金を

解消するという意気込みで、積極的な事業展開を図ってまいりたいと存じます。

何度も申し上げますが、改善計画を着実に実践していくためには、組合員の皆様・役職員の皆様の全面的な協力が不可欠となっております。

漁業を取り巻く環境は、新型コロナウイルスという予想もなかった大きな嵐に巻き込まれ、すべての歯車が狂ってしまうほど厳しさを増しており、組合の自助努力だけでは解決できない諸課題が山積しております。

このようなときに、組合長に再選されたことは、身の引き締まる思いであり、新しい体制を軸に切磋琢磨し、この最大の難局を打開するために、初心にかえって漁協経営に専念し、組合員の皆様から信頼される組合を目指し、役員一丸となって頑張つてまいり所存でありますので、組合員の皆様のご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。

新役員

代表理事組合長

本間 昭志 再任
専務理事 西村 盛 新任

(参事(兼)総務部長)

理事 伊原 光 臣 再任
理事 鈴木 徳 正 新任
理事 田代 善 幸 新任
理事 和田 均 均 再任
理事 榎本 敏 明 新任
理事 飯塚 厚 司 新任
代表監事 池田 薫 再任
監事 本間 元 幸 再任
監事(員外) 阿部 秀 春 新任

退任役員

田村 勇 次 専務理事
池田 亀五郎 理事
佐藤 清八郎 理事
富樫 紘 一 代表監事

人事異動のお知らせ

◆異動(令和2年7月1日付)(旧所属)
安藤 大栄 総務部長(兼)管理課長
(管理課長)
本多 篤 管理課長代理
(管理課係長)
◆退職(令和2年6月19日付)
西村 盛 (役員就任(専務理事))
(参事(兼)総務部長)



専務理事 退任の挨拶

このたび、役員任期満了を機に、退任することといたしました。かえりみますと、昭和五十四年に臨時職員として山形県漁業協同組合に入組以来、役員四期十二年を含め、今日まで四十一年間に亘って、組合員の皆様から支えられながら、水産業の振興と漁協の発展に微力を尽くしてまいりました。

この長い道のりを組合員や役員の方々の皆様をはじめ、関係機関の方々と苦楽を共にしながら、悔いのない勤めを続けさせていただきましたことは、公私に亘る、皆様方の暖かいご理解とご支援の賜物と深く感謝いたしております。

通常総代会終了後の理事会において、新たな、そして強靱な執行部が誕生いたしました。

時代的には、多くのなすべき諸課題が山積しておりますが、再選されました本間組合長を中心に、組合員の皆様のご理解とご協力を得ながら役員一丸となって、漁業と漁村の活性化と強靱な組織の構築に向かってご尽力いただきたく存じます。

これからは、多くの方々の出会いにより得ました貴重な体験と良き思い出を心の糧として、新たな、そして有意義な人生を歩んでいく所存でありますので、今後とも変わらないご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、山形県漁業協同組合の益々のご発展と、全組合員はじめ役員一同様のご健勝・ご多幸をご祈念申し上げます。退任のご挨拶とさせていただきます。

大変お世話になりました。

通常総代会につきまして、例年であれば多くの総代、ご来賓の方々、各関係機関代表者のご臨席の下に執り行うところですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面による出席（書面決議）を基本といたしました。

緊急事態宣言解除後一か月余りとなりますが、都心では再び感染者が増加傾向となりつつあり、7月に入ってから山形県内でも新たに感染者が確認されています。このことを受け、7月7日に山形県漁協から関係者各位へ向け「新型コロナウイルス感染症」についての注意喚起文書が出されました。組合関係者から感染者が発生した場合は、金融窓口の閉鎖、市場業務の停止を余儀なくされます。今一度気を引締め、感染予防対策を徹底しながら行動されるよう、お願いいたします。

水産関係団体 令和元年度 事業の概要

日本漁船保険組合 山形県支所

令和元年度事業概要は、漁船保険（普通損害保険及び満期保険）の引受では、加入隻数が549隻（前年同期比93.7%）で37隻減少したものの、保険金額は58億円（同121%）と10億円の増額となりました。保険金額の大幅な増額は、新造船の加入があったことによります。純保険料は、6,974万円（同98.5%）で、107万円の減少となりました。

普通保険事故の件数では、16件減少の82件（同83.7%）となったものの、支払保険金においては大額の保険金支払いが相次いだことで、7,317万円（同250.9%）と大幅に増加しました。損害率（支払保険金÷純保険料×100）は、104.9%でした。

その他については下表のとおりです。

表1 漁船保険地区別加入実績及び支払実績

支所名	在籍漁船	加入漁船	保険金額	純保険料	事故件数	支払保険金	損害率	事故率
念珠関	151隻	139隻	926,530千円	14,814,419円	14件	8,372,946円	56.5%	10.1%
温海	50	48	189,670	2,896,433	5	3,577,589	123.5	10.4
豊浦	73	67	539,250	9,081,718	9	22,480,723	247.5	13.4
由良	65	57	391,470	8,308,359	11	4,102,076	49.4	19.3
加茂	55	41	143,040	2,796,923	7	3,216,979	115.0	17.1
さかた総合	90	80	819,110	18,144,509	19	23,266,074	128.2	23.8
吹浦	44	32	130,230	2,612,258	6	5,224,313	200.0	18.8
飛島	107	82	319,650	6,231,818	11	2,932,549	47.1	13.4
その他	6	3	2,369,000	4,857,580	0	0	0.0	0.0
合計	641	549	5,827,950	69,744,017	82	73,173,249	104.9%	14.9%
前年同期	668	586	4,816,360	70,817,144	98	29,164,761	41.2%	16.7%
前年同期比(%)	96.0%	93.7%	121.0%	98.5%	83.7%	250.9%	254.7%	89.4%

*在籍漁船には山形県漁業協同組合所有船「第5ちとせ丸」を含む。

*在籍漁船隻数は、令和2年3月31日現在。加入漁船数は、平成31年4月1日～令和2年3月31日までの累計。

表2 漁船船主責任保険等加入実績と保険金支払状況

種類	本年度契約金額		支払保険金		種類	本年度契約金額		支払保険金		
	隻数	金額(千円)	件数	金額(円)		隻数	金額(千円)	件数	金額(円)	
漁船船主責任保険	基本損害	546	293,400,000	6	7,465,062	漁船乗組船主保険	411	349,500	0	0
	乗客損害	88	32,560,000	1	277,353	漁船積荷保険	2	140,000	0	0
	人命損害	60	194,500	1	2,500,000	プレジャーボート責任保険	145	19,640,000	0	0

総代会日程

通常総代会

令和2年8月11日(火)

午後2時30分

日本漁船保険組合

本所 会議室

令和元年度 無事故漁船所有者等表彰

水産庁長官表彰

念珠関総括支所 第三金重丸 富 樫 千代美

日本漁船保険組合会長表彰

念珠関総括支所 山 久 丸 佐 藤 朝 雄

由良総括支所 恵 比 須 丸 由良建網漁業組合
代表 和田 均

飛島支所 第十八正徳丸 鈴 木 徳 正

飛島支所 第十八若潮丸 本 間 正 喜



全国合同漁業共済組合 山形県事務所

本県の令和元年度の水揚高は27億91百万円となり、前年度対比で87百万円の増加となりました。しかしながら底曳網漁業をはじめ沿岸漁業が総じて水揚不振となり、特に中型いか釣り漁業が大和堆における中国や北朝鮮漁船の違法操業等により深刻な被害を受け、前年を大きく下回りました。また、恒常的な問題となっている漁業者の高齢化、魚価安と燃油価格の高止まり状況、漁場の急激な変化なども相まって漁業経営を一段と厳しくしております。

このような漁業環境にあつて本年が最終年度となる普及推進全国運動「かよさい経営」を「らすで万全」をスローガンに、併せて「資源管理・収入安定対策事業」を説明しながら未加入船を中心に推進運動を展開しました。

その結果、鶴岡市、酒田市の小型合併漁業3件の新規加入と漁獲共済で2件の契約割合引き上げがありました。前年度同期比での漁獲共済の加入件数は217件と8件減少となり、共済金額においては前年を若干下回ることとなりました。

長期にわたる漁業環境、経営環境の悪化が「ぎよさいと積立ぶらす」にその役割と期待を更に大きくするものと思われ、ここにあらためまして、漁業者各位のご理解とご協力に感謝を申し上げます。

(令和元年度 20都府県事務所別 実績一覧表)

事務所別引受実績 (単位:百万円)

事務所	年		
	本年	前	増減
	共済金額	共済金額	
秋田県	886	820	66
山形県	2,005	2,144	△ 139
福島県	4,858	4,701	157
茨城県	13,828	11,725	2,103
東京都・本所	3,371	3,268	103
神奈川県	4,740	4,892	△ 152
静岡県	13,735	13,800	△ 65
新潟県	5,672	5,775	△ 103
福井県	6,009	5,808	201
愛知県	6,769	5,854	915
京都府	3,424	3,444	△ 20
大阪・和歌山	9,749	9,627	122
岡山県	2,854	2,525	329
鳥取県	10,150	8,897	1,253
島根県	11,910	11,774	136
山口県	6,630	6,882	△ 252
高知県	20,998	19,173	1,825
大分県	18,269	17,567	702
沖縄県	6,734	5,627	1,107
合計	152,591	144,303	8,288

事務所別支払実績 (単位:百万円)

事務所	年		
	本年	前	増減
	共済金	共済金	
秋田県	34	24	10
山形県	179	163	16
福島県	208	145	63
茨城県	83	209	△ 126
東京都・本所	29	20	9
神奈川県	253	192	61
静岡県	550	510	40
新潟県	176	212	△ 36
福井県	124	101	23
愛知県	183	266	△ 83
京都府	82	239	△ 157
大阪・和歌山	251	268	△ 17
岡山県	62	150	△ 88
鳥取県	144	111	33
島根県	248	174	74
山口県	421	251	170
高知県	250	379	△ 129
大分県	76	149	△ 73
沖縄県	174	69	105
合計	3,527	3,632	△ 105

積立ぶらす (単位:千円)

事務所	積立ぶらす	
	漁業者積立額	払戻補填金
秋田県	41,750	105,120
山形県	66,790	188,800
福島県	188,560	173,360
茨城県	519,440	405,840
東京都・本所	243,550	208,640
神奈川県	310,120	565,720
静岡県	925,980	1,706,800
新潟県	315,060	502,920
福井県	241,480	329,600
愛知県	285,870	289,040
京都府	179,770	307,240
大阪・和歌山	476,080	475,960
岡山県	124,110	203,960
鳥取県	424,900	387,800
島根県	497,890	626,720
山口県	269,800	612,560
高知県	555,170	750,920
大分県	700,040	206,680
沖縄県	164,700	258,080
合計	6,531,060	8,305,760

**ぎよさい加入で
安心経営**



つなぐちゃん

**全国合同漁業共済組合
山形県漁業共済事業運営委員**

令和2年6月20日開催の第二回運営委員会において補欠選任が行われ、次のとおり新しく就任・選任されました。

〈運営委員 任期〉〈補欠選任〉

令和4年6月の通常総代会終了時まで

運営委員長	本間 昭志 (任期中)
運営委員	伊原 光臣 (任期中)
運営委員	和田 均 (任期中)
運営委員	飯塚 厚司 (任期中)
運営委員	鈴木 徳正 (新任)
運営委員	田代 善幸 (新任)
運営委員	榎本 敏明 (新任)
運営委員	西村 盛 (新任)

〈辞任〉

運営委員	池田 亀五郎
運営委員	佐藤 清八郎
運営委員	田村 勇次

JF 共水連東北事業本部 山形支店

JF 共済は2019年度「一人ひとりの笑顔のために：協同の原点 JF 共済3か年計画（2017年度～2019年度）」の最終年度として、JF 共済の理念である「組合員・地域住民の暮らしの保障に万全を期す」という全体目標を掲げ取り組みました。

昨年度は「協同の原点やまがた2019 チョココーキャンペーン」と銘を打ち、共済事業におけるコンプライアンスと普及推進並びに、各種研修実施等による共済知識の向上と普及推進体制の強化に努めました。あわせて東北6県合同による「令和元年！がんばろう！医療共済『匠』パワーアップキャンペーン」も行ない、事業量目標の早期達成に向けたチョココーキャンペーンを展開しました。

JF 共済の基幹種目である生命共済「チョココー」は、純新規目標達成には至りませんでした。保障実績10億円を超えるなど一定の成果を挙げることが出来ました。一方、建物共済「くらし」では新規補償目標を達成することが出来ませんでした。

厳しい漁業・事業環境のなか、共済加入等にご協力頂いた皆様に対し、深く感謝申し上げますと共に、組合員・地域住民の多様なニーズや信頼にお応え出来るよう、JF やまがたと一体となって「ふれあい型」推進に努めて参りますので、なお一層のご支援ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

☆JF 共済 2019年度加入状況

(単位：件、万円)

共 済 種 類	実 績		保 有			
	件数	共済金額	件数	共済金額		
長期共済	チョココー	新規	139	133,590	1,047	691,430
		純新規		107,290	—	—
	くらし		22	27,180	222	264,830
	年金	新規	7	40	425	2,458
増額		9	19			
短期	ノリコー		256	99,250	—	—
	カサイ		390	598,309	—	—

☆2019年度共済金支払状況

普通厚生共済（チョココー）			
満期	102件	17,744万円	
死亡	5	1,600	
入院・通院他	89	633	
計	196	19,977	

漁業者老齢福祉共済(ねんきん)		
年金	220件	3,265万円
死亡	0	0
計	220	3,265

乗組員厚生共済(ノリコー)		
満期	1件	200万円
事故	1	0.1
計	2	200.1

生活総合共済(くらし)		
満期	20件	1,580万円
事故	74	3,388
計	94	4,968

火災共済(カサイ)	
3件	29万円
団体信用厚生共済(ダンシン)	
1件	682万円

「JF 共済3か年計画」
運動スローガン
(2020年度～2022年度)



「涙の安心を未来へ
～ひろげよう共済の輪～」

がんばろう漁業 浜の応援団

笑顔がいっぱい JF 共済

原点回帰 協同の力

推進本部長 運営委員について



- | | | |
|-------|-------|------|
| 推進本部長 | 本間 昭志 | (新任) |
| 運営委員 | 西村 盛 | (新任) |
| 運営委員 | 伊原 光臣 | |
| 運営委員 | 和田 均 | |
| 運営委員 | 飯塚 厚司 | (新任) |
| 運営委員 | 榎本 敏明 | (新任) |
| 運営委員 | 鈴木 徳正 | (新任) |
| 運営委員 | 田代 善幸 | (新任) |

本年六月末日で任期満了となる運営委員について、令和二年六月二十日の山形県漁業協同組合の理事会において、次の方々が選任、承認されましたのでご紹介させていただきます。

全国漁業信用基金協会 山形支所

(1) 会員と出資金

会員数は、新規加入1名、脱退2名により、前年度末より1名減少し、年度末会員数は60名であります。

また、出資金は、新規加入により1,750千円増加する一方、脱退会員に対する払戻により750千円減少し、年度末出資金は665,650千円となりました。

(2) 保証業務

年間保証計画額100,000千円（漁業近代化資金：75,000千円、その他一般資金：25,000千円）を目標に保証推進を行いました。年間保証引受額は16件63,360千円となり、その結果、年度末保証残高は111件505,885千円となりました。前年度末対比では、件数では21件、保証残高では35,246千円減少しております。

なお、資金種類別の保証状況は下表のとおりであります。

(3) 代位弁済と求償権

代位弁済は発生いたしませんでした。一方、求償権の回収については、極めて厳しい情勢の中で積極的な回収努力と支払協力による回収で6,932千円（計画額6,453千円、達成率107%）の回収を図ることができました。また、求償権の償却基準に照らし、2名について7件16,448千円の償却を実施した結果、年度末求償権残高は、前年度より7件23,380千円減少し、126件1,208,667千円となりました。

(4) 収支

収入については、保証料収入は保証計画が未達成であったことが影響し減少しましたが、有価証券利息収入が増加したことから、収益合計18,734千円となりました。

一方、支出については、費用合計は15,439千円となり、当期利益3,295千円計上する結果となりました。

今後も国の施策事業を積極的に活用し、漁業金融の円滑化を促進するとともに、保証基盤の強化を図り、中小漁業者等の漁業経営の改善と安定化に寄与できるよう努めて参りたいと考えております。

(5) 役員（任期：令和2年7月1日～令和5年6月30日）

担当理事 加賀山 祐（新任）
担当監事 高橋 和博（重任）

(6) 運営委員（任期：令和2年7月1日～令和5年6月30日）

運営委員 加賀山 祐（新任）
運営委員 菊地 繁美（重任）
運営委員 竹越 攻征（重任）
運営委員 佐藤 啓之（重任）
運営委員 村上 浩（重任）
運営委員 伊原 光臣（重任）
運営委員 田代 善幸（新任）
運営委員 和田 均（重任）
運営委員 飯塚 厚司（新任）

（金額単位：千円）

区分	前年度末保証残高		保証額		償還額		代弁額		本年度末保証残高	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
近代化資金	54	459,732	10	34,890	9	61,026	0	0	55	433,596
一般資金	金融公庫資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般緊急融資資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	借替緊急融資資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他一般資金	78	81,399	6	28,470	28	37,580	0	0	56
小計	78	81,399	6	28,470	28	37,580	0	0	56	72,289
計	132	541,131	16	63,360	37	98,606	0	0	111	505,885

すいさん山形令和2年5月号3ページ「総会・総代会の日程」のうち、全国漁業信用基金協会の通常総会日程に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

誤) 6月30日(土) → 正) 6月30日(火)

理事会情報

令和2年度 第2回 理事会議案
開催日…令和2年6月2日(火) 午前9時
場所…本所 講堂

【協議事項】

1 令和元年度全漁連期末監査の概要及び結果について

2 令和元年度期末監事監査の報告について

3 令和元年度貸借対照表・損益計算書及び注記表並びに業務報告書について

4 第55事業年度通常総代会の提出議案について

5 令和2年度事業計画(案)について

6 給与規程の一部改定(案)について

7 地方卸売市場業務規程の一部改定(案)について

8 令和2年度資金運用計画(案)について

9 令和2年度栽培漁業地域展開促進事業実施計画(案)について

【報告事項】

1 役員候補者推薦会議の結果について

2 令和元年度固定資産減損損失の兆候について

3 令和元年度自己資本比率の状況について

4 令和元年度税効果会計の適用について

5 組合員の加入・脱退及び減資について

6 その他について

令和2年度 第3回 理事会議案
開催日…令和2年6月20日(土) 午前11時
場所…本所 第一会議室

【協議事項】

1 代表理事組合長及び専務理事の選任について

2 関係団体運営委員会及び各種内部委員会等の委員選任について

3 参事の解任について

県と水産漁業関係者との意見交換会開催

今年度末に山形県海面漁業振興計画が改定されます。漁業者の意見を吸い上げ、より良い振興計画を作成したいと高橋農林水産部長が浜へ出向き、水産漁業関係者との活発な意見交換会が各所で行われました。

主な質疑応答について掲載いたします。

6月1日(月) 飛鳥地区

Q 新型コロナウイルスの影響で魚価が低迷し、苦勞している。国の資金は、漁業以外の収入が高いと借りることができないため使いづらい。

A 県では、海産物の流通経費支援として魚箱等の経費について助成することとした。また、県の無利子融資制度もあるので活用して欲しい。(高橋部長)

Q 最上丸の活エビ出荷の状況を教えてください。

A ノロゲンゲが抜け出る網を使い、試験を行っている。2、3割は生存している、とのデータがあがっているが、まだデータが少ない。これから試験を積み重ね実証していく。(佐藤主幹)

Q 漁港に放置されている廃船の処理についてどうお考えか。酒田市では今年度より廃棄費用に対する助成金が予算計上されており、廃船の安価な処理方法を検討していたところである。

A 酒田市の取り組みを注視するとともに、県でもできることをしていきたい。(高橋部長)



6月2日(火) 中型イカ釣り漁業者

場所 漁協本所 会議室

Q イカ釣り船は北朝鮮による違法操業に苦しんでいる。昨年は、漁獲量が例年の1/3程度であり、50年間操業してきた中でここまで落ち込んだのは初めてである。

乗組員の確保も課題の一つである。漁獲量に左右されるものの、一般の業種より給与水準は高いと考えるが、外国人実習生に比べ日本人は長続きしない。現在、新型コロナウイルスの影響で入国待ちをしている実習生が3名いる。実習生を受け入れる業界の自主規制で、「日本人乗組員を外国人乗組員より多く乗船させる」という基準を設けているため、日本人乗組員がもう少し増えてほしい。

Q 最上丸に、大和堆の調査をしてほしいと頼んだが、燃料代がないと断られた。石川県は、こまめな調査を行っており、その情報がリアルタイムで漁業者に共有されている。できれば、最上丸には、5、8、10月の3回、1週間から10日間の調査をして我々に情報を提供していただきたい。

A 燃油代が不足して必要な調査ができないという状況ならば、何とかしなければならぬ。コロナ対策については、水産業の動向をしっかりとみるようにと、知事からの指示がでてきている。しっかりと対応していきたい。(高橋部長)



6月2日(火) 由良地区

場所 由良総括支所会議室

Q ニジサクラは海でも養殖が可能か。

A 3倍体のバイテク魚なので逃げない環境で育てなければならぬ。中間育成施設なら可能である。(佐藤主幹)

Q 漁業のICT化という観点から、漁業者が個々に持っている情報を共有できないか。(佐藤主幹)

A 沖に行かず、水温やうねりなどのデータが入りやすいのならよいが、うまく共有できるのか課題である。(漁業者)

Q 本日受け取った資料には様々な施策が書いてあるが具体性がない。

A 今回の意見交換会は、次期振興計画の具体的な施策を考えるにあたり、現場の皆様から知恵をお借りするために開催した。普段考えていることをぜひ教えてほしいが、全ての意見に対し、すぐ実行に移せるというものでもなく、中長期的に取り組むものが出てくると思う。(小林課長)

Q これまでの施策は機能していない。県庁と庄内総合支庁、そして現場の我々との連携がうまく取れず、ミスマッチが生じていたのではないか。県における水産行政一番の課題である。



から指摘を受けている。県全体としては水産業振興に力を入れたいと考えている。県議会からも条例が必要なのではないかと話しが出ている。条例を制定し、中長期的な考え方を決める。それを具体化させるのは振興計画であり、漁業者への支援を決定するのは予算である。この3つがうまく回るようにしていきたい。(高橋部長)

Q ネット販売等の状況を教えてほしい。(佐藤主幹)

A 定置網漁では魚種が絞れず、ネット販売には向きである。はえ縄の漁業者であれば向いているのではない。しかし、ネット販売を行うと漁協が不利益になるのではない。漁協からは様々な業務を請け負ってもらっており大変助かっているが、これからは漁業者が自ら出荷する市場を選択する時代がやってくる。(漁業者)

A どの市場に出荷していただいても漁協へ手数料が入る。漁業者が自ら選択する市場へ出荷していただいてもよい。だが、例えば豊洲市場に出荷したからと言って、高く取引されるわけではない。(漁協)

**6月20日(火) 鼠ヶ関地区
場所 念珠閣総括支所 会議室**

Q 磯見漁は冬場の収入が課題であり、港内にアカモクを植えている。冬場の収入が確保できれば漁業がより魅力的なものになるのではないか。

Q 昨年、カキの身入りが大変良かったにも関わらず、価格はこれまでにないほど低かった。

そこでイガイを獲り始めたが、検査が遅く売れない状態であった。やっと売れた時には安く売ってしまった。

A イガイの検査は早める方向で調整している。(漁協)

Q 栽培センターからアワビ稚貝を購入している。地区ごと割り当てが決まっているが、毎年一定数である。それでは不足するので、追加で購入するのだが、自主事業分となるため高値で購入することになる。

A 県では、資源管理の側面から毎年158,000個供給している。その分に関しては市、町からの

補助金が充てられるため安価になっている。供給数は、アワビの餌となる海藻の面積から数量を決めているが、実際の定着率が低ければ供給数を見直すこともある。また、定着率が高まる放流方法を技術開発しているところである。(佐藤主幹)

Q あらゆる魚価が安い。価格安定のため畜養施設を整備してほしい。

Q はえ縄漁を営んでおり、トラフグやマダイを活魚出荷しているが、活魚箱で死んでしまうことがある。またよいタイミングで出荷できるように、活魚を保留できる畜養施設を整備してほしいが、県では補助制度はあるのか。

A 畜養に関しては運用していくための課題がある。魚や場所の管理について考えていく必要がある。

Q 漁獲量は年ごとにばらつきが生じる。漁師はその年の一番良いものを食べているので、自分が獲ってきた魚介類をSNSで公開することでよい宣伝になると思う。しかし、漁師はSNSへの投稿が苦手だと思つので講習会を開いてほしい。

A 県農林水産部でFacebook bookを運営している。多い時には1万を超える閲覧数がある。写真とコメントをお送りいただければ掲載について前向きに考えたい。(高橋部長)

Q フグがたくさん獲れた時に漁師で活玉で販売したい。山形県は講習会を受けると免許が取れる。

A フグの免許に関しては、来年から試験を受けてもらうことになる。今年度の講習会は行われぬ。(佐藤主幹)



今回掲載できなかった内容につきましては、次号に掲載します。

**大和堆での安全操業に関する
意見交換会について**

中型イカ釣り漁業において重要な漁場である、大和堆での操業が外国船の違法操業により脅かされている状況が続いています。そのことを受け、水産庁から漁業取締課首席漁業監督指導官 梶脇利彦氏、同じく漁業監督指導官 古賀剛氏、管理調整課指定第3班課長補佐 島崎織人氏、全国いか釣り協会から専務理事 中津達也氏をお招きし、中型いか釣り漁業者他水産関係者との意見交換会が6月2日県漁協本所講堂にて行われました。



はじめに、水産庁より「昨年度は5千隻に対し退去警告を行い、16百隻に実際に違法船に対し行われた追力のある放水措置の様子を動画で確認しました。違法操業船に対する拿捕については、「拿捕を行うと複数の監視船が現場から離れることを余儀なくされるため、その間の安全が確保できなくなると想定される。また、安全確保のため、操業中の海域から離脱を要請する場合があります。ご理解の上、ご協力をお願いしたい。」との説明がありました。

また、山形県漁協所属である佐藤漁労長から「いつ何かあるかわからないため、24時間体制で無線連絡を受け付ける体制をとって欲しい。」と要望がありました。そのことについて島崎課長から「今年度は新造の2隻を新潟と境港に配備し、令和3年度はさらに新造船2隻を従事させる予定である。24時間体制で対応するが、無線では連絡がつきにくい状況も考えられる。衛星回線を介した電話やFAXを活用し、昼夜問わず連絡をいただきたい。」と返答があり、水産庁の違法操業船に対する取り締まりに対する強化への強い思いが感じられました。

写真や紙面上ではなかなか得ることができない、貴重な意見交換会となりました。

令和元年度 水揚表彰



令和元年度 山形県漁協水揚優秀船表彰

漁業種類	船名	船主名	所属支所等
船凍県外中型船	50t以上	第85若潮丸	石垣漁業(株) 根室漁協
船凍県外小型船	30t未満	第88漁進丸	(有)漁進水産 鳥取漁協
底曳網か	15~20t	第28廣徳丸	池田亀五郎 さかた総合市場
		萬龍丸	飛塚美和 念珠関総括支所
	10~15t	第21末廣丸	(有)末廣水産 念珠関総括支所
		昭栄丸	佐藤富士喜 念珠関総括支所
		大洋丸	佐藤太助 念珠関総括支所
	5~10t	第2漁吉丸	阿部清浩 さかた総合市場
		清徳丸	佐藤清紀 念珠関総括支所
		第2千祥丸	佐藤栄一 由良総括支所
	5t未満	福傳丸	阿部昌樹 さかた総合市場
	はえ縄・一本釣刺網	1~3t	海成丸
海皇丸			本間健太郎 念珠関総括支所
龍鵬丸			劔持浩 念珠関総括支所
海生丸			五十嵐健生 由良総括支所
定置網		嶺神丸	(有)仁三郎 豊浦支所
採介藻か	1t未満	幸進丸	榊原英樹 由良総括支所
		白山丸	榊原昭夫 由良総括支所
鮮いか県内船	10~20t	第18睦丸	池田敏行 さかた総合市場
鮮いか県外船	30t未満	第38大一丸	中野正吾 戸井漁協
		輝丸	野呂秀樹 えさん漁協
		第58喜久丸	櫻庭斉 福島吉岡漁協

令和元年度 水揚優秀船漁撈長表彰

表彰基準	表彰者名	船名
県外船	本間 健	第85若潮丸

令和元年度 酒田市水揚優秀船表彰

区分	漁業種類	船名	船主名	所属支所等	
県外	いか釣	50t以上	第85若潮丸	石垣漁業(株)	根室漁協
		30t未満	第38大一丸	中野 正吾	戸井漁協
			輝丸	野呂 秀樹	えさん漁協
			第58喜久丸	櫻庭 斉	福島吉岡漁協
			第28新生丸	棟方 武司	小泊漁協
	第18長栄丸	長谷川忠雄	小泊漁協		
県内	船凍いか釣	30t以上	第38正徳丸	佐藤長悦郎	豊浦支所
		5t以上	第2漁吉丸	阿部 清浩	さかた総合市場
	5t未満		福傳丸	阿部 昌樹	さかた総合市場
	いか釣	5~30t	第18睦丸	池田 敏行	さかた総合市場
			栄幸丸	齋藤 仁	飛鳥支所
		5t未満	第21大幸丸	讚岐 隆	さかた総合市場
	地先	3~5t	宝洋丸	進藤 十二	さかた総合市場
			金毘羅丸	讚岐 利行	飛鳥支所
		3t未満	第5多喜丸	渡部 伸二	さかた総合市場
		豊幸丸	佐藤 秀樹	飛鳥支所	
	磯見		第8吉辰丸	斎藤 勤	飛鳥支所

令和元年度 鶴岡市水揚優秀船表彰

漁業種類	船名	船主名	所属支所等
底曳網	10t以上	萬龍丸	飛塚美和 念珠関総括支所
		第21末廣丸	(有)末廣水産 念珠関総括支所
		昭栄丸	佐藤富士喜 念珠関総括支所
	5~10t	清徳丸	佐藤清紀 念珠関総括支所
		第2千祥丸	佐藤栄一 由良総括支所
	5t未満	弥恵丸	佐藤正美 温海出張所
		伝栄丸	齋藤和男 加茂出張所
沿岸	3t未満	海成丸	本間金弥 念珠関総括支所
		海皇丸	本間健太郎 念珠関総括支所
		龍鵬丸	劔持浩 念珠関総括支所
定置網		嶺神丸	(有)仁三郎 豊浦支所
磯見	1t未満	幸進丸	榊原英樹 由良総括支所
		白山丸	榊原昭夫 由良総括支所

小型定置網の事業化に向けての研究

この研究のきっかけはS・P・H*（スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール）事業の中の「海を興すづくり」で展開していきました。1年目から3年目まで、地元の仁三郎、石川県七尾市の鹿渡島定置、次に山形県漁協「吹浦支所」の協力を得て研修を実施してきました。また、3年目の秋田県男鹿市での研修では多くを学び、更に小型定置網を借りることができました。3年目以降、6年目の現在まで、夢に見た自分たちの定置網を地元を設置するため、研究に奔走しております。最初は何ものなかったこの研究、困難を乗り越え成功するよう祈ります。

山形県立加茂水産高等学校 教頭 **板垣 寿勇**

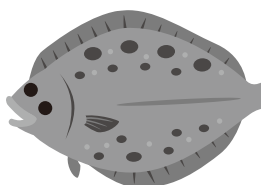
*S・P・H：文部科学省の研究指定事業



製作中の定置網



6月17日
2学年ごみ拾いの様子



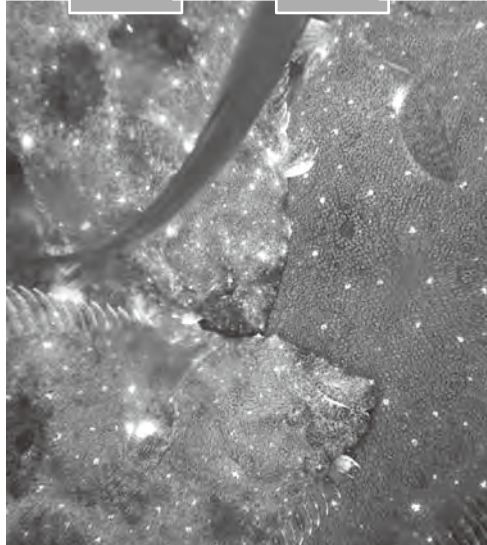
ひらめの蓄養について

漁獲物の安定供給と付加価値向上を図るため、栽培漁業センターの屋外施設を活用して、漁業者が行う蓄養を支援する「蓄養モデル実証事業（県事業）」が今年から始まりました。

その最初の試みとして、5月に定置網で漁獲される産卵期のヒラメを、同時に漁獲されるマアジと混養し、魚の供給が減る8月に出荷し、単価アップを狙う取り組みが進行中です。

現在、天然マアジを食べて肉厚となったヒラメが、覗くと水槽の底でにらみを利かせています。今後は料理人の方々を対象とした試食会を開き、蓄養ヒラメの評価を確認して販売戦略を立てるとともに、夏場の水温上昇にいつまで対応できるか限界に挑戦し、来年度以降の蓄養によるヒラメのブランド化に目星を付けたいと考えています。

（公財）水産振興協会 業務執行理事 笠原 裕



庄内浜では、昨年は極端な不漁だったスルメイカ（夏イカ）の水揚げが回復の兆しを見せています。6月までの半年間の累計漁獲量は昨年同期の4倍以上となっていて、いか一本釣り漁業では昨年の10倍以上漁獲されており、ここ5年間でも最高の漁獲となりました。底びき網も昨年以上の漁獲がありました。スルメイカの漁場が本県周辺に長く維持されることを期待したいと思います。

スルメイカは山形県で一番多く水揚げされる水産物ですが、年によって大きく増減します。日本中のイカ釣り船がスルメイカの群れを追いかけて操業し、漁場から近い港を九州から北海道まで渡り歩いて水揚げしますので、日本海の流れや水温の分布で、山形沖に長い間イカの群れがいればたくさん水揚げされますが、群れがさっさと北に移動してしまうと他県の港に水揚げされてしまうからです。近年は、それに加えて資源の減少も大きく、昨年はどこでも釣れない状況となっていました。

日本海のスルメイカは、量の多少はありますが一年を通してどこかで水揚げされています。スルメイカの寿命は一年で、産卵すると死んでしまいますが、端境期が無いのは、生まれる時期と場所が違う群れが混じっているからで、一昔前は山陰、九州海域の秋生まれ、東シナ海の冬生まれ、山形沖や山陰沖のローカル群の夏生まれの3系群があ

るとされていましたが、近年の温暖化を始めとする気候変化で産卵期や産卵場が変化したことも資源減少の原因と考えられています。

スルメイカの卵や幼生の分布はプランクトンネットを使って調査しています。しかし、生み出された卵が海中でどんな形で存在しているのかは、日本海で20万トン（5億匹以上）もとれていたのに、実は何十年間も誰も見たことがありませんでした。

昭和30年頃、ある研究者がイカを樽に入れて海中に沈めて産卵させたところ、引き揚げたときには塊が崩れていましたが、ラグビーボールぐらいの大きさでゼラチン質に包まれた塊だろうと推定されたものの、長い間謎のままでした。

ところが昭和61年、鳥取県の栽培漁業センターの水槽で、バット状態で泳がせていた雌のスルメイカが産んだ卵塊が初めて撮影されました。それは、予想を超える直径1メートルものゼラチン質に包まれた卵塊で、胴体の長さが30センチ足らずのイカが産んだものだと考えられないような大きさでした。日本ウナギの産卵生態なども近年やっとわかり始めてきましたが、身近な魚介類でも、生態が完全に分かっている種類はほとんど無いと言ってもよいくらい謎に満ちています。

庄内総合支庁水産振興課
専門水産業普及指導員 忠鉢 孝明



水研の何でも魚ッティング

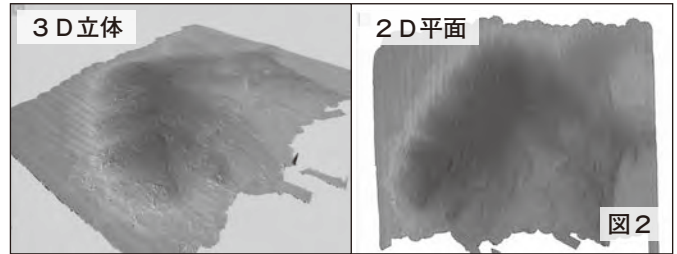
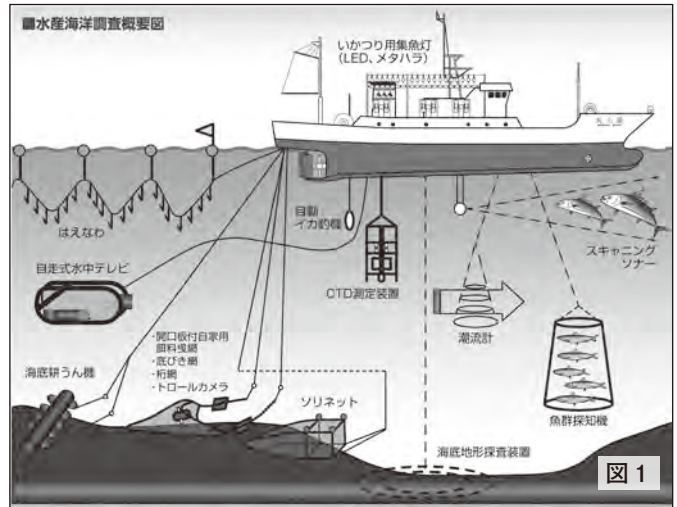
新最上丸の調査機器の紹介

第1回 海底地形探査装置の巻

新最上丸の新機能を今回からシリーズでお知らせします。図1をご覧ください。最上丸の調査は、底びき網漁具、桁網、はえなわ漁具、集魚灯などの漁撈装置とともに、塩分や水温の海洋環境を計測するCTD測定装置、全周型スキャニングソナー、魚群探知機、計量魚群探知機、海底地形探査装置などの超音波を発信・受信して情報収集する音響装置、水中カメラ、トロールカメラの水中映像取得装置というように調査船ならではの電子機器を駆使します。

今回ご紹介するのは海底地形探査装置（マルチビームソナー-WMB1320FL）です。その名のとおり主に海底地形を把握するための機器です。航行する船の底から超音波を発射し、海底にぶつかってはね返ってくるまでの時間を測定して水深を割り出し、GPSによる位置データと合わせることで正確な海底地形を表示します。最大探知深度は約500mです。図2は今年作成した明石礁の地形図です。上段が3D立体図、下段が上から見た2D平面図で、色と陰影で水深や起伏を視覚的に把握することができます。

今後、魚礁等の水中構造物の現状把握や漁場開拓といった要望に応える調査に活用していきます。今回は水中カメラについて紹介いたします。



水産研究所海洋資源調査部 研究員 榎 宗市郎

伝えます！庄内浜の味と技 **放送中！** ～庄内浜文化伝道師ラジオ～

庄内で獲れる地魚の美味しさと、料理方法・食文化などを伝える活動を行っている、「庄内浜文化伝道師」の皆さんが毎週火曜と土曜に、酒田FMハーバーラジオにて「伝えます！庄内浜の味と技」という番組を担当し、毎月旬のお魚トークをしています。

7月の放送では、ゲストに「ゆらまちっく海鮮レディース」代表・山形県漁協女性部長の和田光子さんを迎え、「庄内浜の夏の漁」を代表する由良の小鯛の話や、夏の海藻と貝の話をにぎやかに行いました。今後も、色々なゲストスピーカーを交えながら放送していく予定です。ぜひ、聞いてみてくださいね！ 庄内総合支庁 水産振興課 水産振興主査 疋田 志乃



◆7月は、庄内浜文化伝道師の相田満春さん（右端）、佐藤剛さん（左から2人目）、ゲストの和田光子さん（右から2人目）と収録を行いました。

7月放送の話題から

◆庄内浜の「もすく」も、夏が旬。しっかりした歯ごたえが特徴で、さっと湯にくぐらせる「しやぶしやぶ」がおすすりめだそう。



◆夏においしくなる「小鯛（ちだい）」。由良の各家庭では「焼干し」だしにして利用しているそうです。



◆庄内浜の「ニシガイ（ニシゲイ）」。ほろ苦さが特徴の、小さな貝。味噌汁にします。近年のものは苦味が少なくなっているという話も？



◆酒田FMハーバーラジオ

「伝えます！庄内浜の味と技」

◇76.1MHz 毎週火曜日 午前11時～11時30分
(再放送) 毎週土曜日 午後1時30分～2時

◇酒田FMのHPから、ポッドキャスト配信で過去放送分も聞けますよ！

◆Podcast配信はこちらから
(酒田FMのページ)⇒

◇和田さんの出演回は、
7月7日放送分&7月21日放送分 です！



◆庄内浜文化伝道師館
(公式HP)はこちら⇒



◆庄内浜文化伝道師と作った
簡単！おいしいレシピ、
クックパッドで見れますよ！⇒
「やまがたさかなビキッピン」



水 揚 情 報

令和2年6月30日現在

(単位：千円)

区分	支所別	水揚合計	水 揚 地 内 訳							
			吹 浦	飛 島	酒 田	加 茂	由 良	豊 浦	温 海	念珠関
5月末迄水揚累計		192,978	8,728	3,532	44,014	17,930	33,949	18,941	2,625	63,259
月間水揚	県内船水揚	173,089	12,317	10,342	33,066	11,281	21,449	14,148	5,667	64,819
	県外船水揚	99,672	0	0	70,299	0	0	0	0	29,373
	合 計	272,761	12,317	10,342	103,365	11,281	21,449	14,148	5,667	94,192
前年同月水揚		156,900	10,232	8,582	32,749	12,004	27,019	14,052	5,215	47,047
本年度水揚	県内船水揚	349,928	21,045	13,874	68,460	29,211	55,398	33,089	8,292	120,559
	県外船水揚	115,811	0	0	78,919	0	0	0	0	36,892
	合 計	465,739	21,045	13,874	147,379	29,211	55,398	33,089	8,292	157,451
前年度水揚累計		418,686	24,540	15,620	94,726	39,577	73,202	42,614	14,581	113,826
増 減		47,053	-3,495	-1,746	52,653	-10,366	-17,804	-9,525	-6,289	43,625
本年度水揚計画		2,680,000	99,000	84,000	1,362,000	138,000	285,000	173,000	35,000	504,000
達 成 率		17.3%	21.2%	16.5%	10.8%	21.1%	19.4%	19.1%	23.6%	31.2%

今あがっている魚

- 6月のベストテン -

前年対比 増 ↗ 減 ↘ 変らず →

水 揚 金 額 (千円)			漁 獲 量 (kg)		
1	するめいか	138,391 ↗	1	するめいか	402,676 ↗
2	まぐろ類	25,719 ↗	2	ほっけ	113,762 ↗
3	ほっけ	10,224 ↗	3	べにずわい	50,520 ↗
4	たい	9,765 ↘	4	たい	22,345 ↘
5	ほっこくあかえび	9,392 ↗	5	ぶり・いなだ	21,343 ↗
6	かき貝	9,087 ↘	6	あじ	20,943 ↗
7	べにずわい	7,073 ↗	7	まぐろ類	16,891 ↗
8	口細	5,147 ↘	8	たら	10,240 ↗
9	もずく	5,110 ↗	9	かき貝	9,253 ↘
10	あじ	4,077 ↗	10	ほっこくあかえび	8,500 ↗



月間MVP



月間MVP



● 気温が30度を超える一般的な「真夏日」と呼ばれますが、今年の気候はせつ々かなようで、6月の時点で何度も30度を超える気温が観測されました。7月に入ってから梅雨入りで寒暖の差が一層激しくなっています。体調管理に気を付けて夏の気温に体を慣らしていきましょう。

● このたび、田村勇次専務理事がご退任されました。長きに亘り、本県の水産業振興に多大なる御尽力をいただき、心から敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。職員一同、当組合をしっかりと支えていけるよう、より一層精進してまいります。これからもお体に気を付けて、ますますご活躍されますことをお祈り申し上げます。

● 一日は落ち着きをみせた新型コロナウイルスの感染者が、東京都でしわじわりと増えており、いまだ油断ならない日々が続いています。診察を行っている医師の皆さんは、予防のため診察の合間に水を2、3口飲むそうです。こうすることで、粘膜の動きを助ける効果があり、同時に口や喉の粘膜に付着した病原菌を洗い流し、胃酸により殺菌する効果もあるそうです。

● 現代の情報社会において、特にインターネット上には偽りの情報が多く見受けられます。私達が得た情報の中には虚偽の情報も紛れているかもしれません。皆様におかれましては、コロナに関する様々な情報に振り回されることなく、自身の持つ免疫機能を最大限に生かすことができるよう、どうかお身体を大切にしてください。

● 我々「すいさん山形」編集委員は、皆様方のお役に立てる情報をより多くお届けできるように心がけています。今後ともより良い広報誌になるように努めて参りますので、ご意見・ご要望の他、情報などがございましたらご提供くださいますようお願いいたします。

第63宏紀丸



第88輪島丸



第86若潮丸



第31永宝丸



第68栄成丸



第81金剛丸



潮雄丸



第38正徳丸



いざ、海原へ

6月に入り、北上を始めたスルメイカの群れを追い、酒田港からは続々と船凍いか釣り船が出航していきました。残念ながら、例年催されている酒田市主催の「いか釣り船団出航式」はコロナウイルス感染症の影響を受け中止となりましたが、船団の出航を聞きつけた丸山酒田市長が、労いの言葉を伝えたいと、雨の中駆けつけてくださいました。

「私も船団のお見送りがしたかった」という方が、ほかにも大勢いらっしゃるのではないかと思います。酒田港から出航した計8隻のいか釣り船団の雄姿を、紙面で紹介させていただきました。

いか釣り船団の皆様の漁と安全操業、そして何よりご健康を、心よりご祈願いたします。

